

「8m CUBE の空間」における秩序と空間構成に関する研究

日大生産工 ○小林洸琉 日大生産工 鹿又悠雅
日大生産工 沼田和人 日大生産工 西山大地
日大生産工 篠崎健一

1. 研究の背景

現代の建築はあまりにも社会的、政治的な存在になっていると考える。Quinta-Monroyの設計者で知られるAlejandro Gaston Aravena Mori^{注1)}や、『地域社会権主義』¹⁾で知られる山本理顕^{注2)}がプリツカー賞^{注3)}を受賞し、建築が作り出すコミュニティや社会的な繋がりが認められた。建築はその要求に応えようとするあまりに、建築の本質である自律性-秩序^{注4)}という問いを見失っているのではないだろうか。であるからして、今一度、建築の自律性という問いに向き合う必要があると考える。また、森田慶一^{注5)}は「建築造形に内なる法則を認める考え方は、その源をギリシアに発する。古代ギリシア人は、自然界・人間界のあらゆる事象・物象を「秩序」taxiの原理に則って理解しようとした。」²⁾と述べており、古典より秩序が建築を創造することにおいて重要であることがわかる。

日本大学生産工学部建築工学科建築デザインコースという各学年30人の少人数コースがある。各学年の前期・後期で「空間の自律性-秩序」、「コンテキストの中で考える」という建築にとって欠くことのできない本質を、交互に集中的に考えさせるカリキュラムである。2年次の前期に行われる「8m CUBE」という設計課題は、8m立方のキューブの中に、一つの秩序をもった空間を設計するというもので、敷地設定はなくまち並みや風土などは捨象し「空間の自律性-秩序」というテーマだけに絞り、いきなり手を動かして模型をつくる中で思考を巡らせる³⁾、というものである。

筆者らもこの課題に取り組み、空間を作っていく中で秩序とは何かということを思考しながら空間を構成する基礎を学んでいる。

2. 研究目的

本研究は、建築の創造における空間構成と創作された空間の関係を探求することを目的とし、特に本稿では設計課題における学生作品の空間構成とその空間に内在する秩序を明らかにし、建築空間を創造することの一端を得ることを目的とする。

3. 研究方法

本研究では、当該課題が始まった2011年度から2022年度^{注6)}のうち、学内講評会に提出されたパネルがデータとして残っている作品を収集し、研究対象とする。本来、合計360作品が集まるはずだが、パネルデータが残っていない、(連絡が取れない)、分析をする上で立面図や断面図がない等の図面情報が不十分な作品を除いた294作品を研究対象とする。提出されたパネルの図面と模型から3D model^{注7)}を作成し、様々な視点から空間を検証できるようにする。

作品の分析は、「延べ床面積による分析」と「空間構成及び秩序の分析」の2つとする。

3.1. 延べ床面積による分析 (第1の探究)

294作品の提出されたパネルデータに記載された図面より各作品における延べ床面積を算出し、標準偏差^{注8)}及び偏差値^{注9)}を算出する。その後、「空間構成及び秩序の分析」において延べ床面積との関係性を分析、考察する。床面積の算出は壁の芯を基準に算出を行う。また、球や壁と床の概念が曖昧な作品は測定不可とする。階段下も使用可能と捉え、延べ床面積に算入している。

3.2. 空間構成及び秩序の分析 (第2の探究)

本分析では「延べ床面積による分析」にて算出された延べ床面積の平均値+標準偏差1個分以上離れた作品に着目し、つまり他の作品よりも密に空間をつくらうとする中で、実際にどのような空間を作ろうとしたのかを分析する。

上記の当該作品を対象として、提出されたパネルから空間を創作した意図を示す原文と空間構成を端的に示す一文を抽出し、各作品における解釈を得る。以上の3D modelの写真、抽出された原文と空間構成を示した一文に実際に提出されたパネルデータを加えて、データシートにし、一次資料とする。筆者ら4名が各作品の空間を解釈し、設計者以外による作品の理解としてデータシートに加筆する (Fig.1)。

このデータを基礎資料として、当該作品に共通する特徴を得るため、KJ法^{注10)}の要領でグルーピングし、構造化する。グルーピングと構造化は、空間の特徴とその背後にある設計者の意図に着目して数回行い、最終的なグループを結果として得る。



Fig.1 作品シート例

4. 分析と結果

4.1. 延べ床面積による分析

294作品の延べ床面積は、最大316.08㎡(19_22)、最小61.98㎡(20_15)、平均135.18㎡である。壁厚200mmと仮定した際の1フロアの床面積は7.8m×7.8m=60.84㎡であるから、約2.1層の空間を計画しようとしていることがわかる。標準偏差が30.15㎡であり、標準偏差1個分離れると165.33㎡で、標準偏差2個分離

れると195.48㎡である。それぞれ、約2.7層、約3.2層の空間を計画しようとしていることがわかる。

4.2. 空間構成と秩序の分析

45作品の重複を許容してグルーピングし、構造化を試み、計画の特徴を理解する (Fig.2)。

最初に以下の13のグループの特徴を概観する。5作品以上が該当するグループには、A03『しゃがんだり寝たりしなければいくことのできない空間をつくる』(5作品)。A04『スラブの大きさや高さによって空間を規定している』(5作品)。A05『設計者が意図的に内部空間と外部空間をつくっている』(12作品)。A06『内部と外部はガラス等で仕切らずグラデーションするように連続している』(5作品)。A08『光を外壁の開口部によって意図的に制御している』(5作品)。A09『壁と天井で覆われた閉じた空間をつくり、それ以外の空間との対比をつくる』(6作品)。A11『壁の配置や曲面、開口によって視線や動線を制御している』(7作品)。4作品以下が該当するグループには、A01『スラブのズレや壁の高さの構成を椅子やテーブルなどの家具のように使用する』(4作品)。A02『湾曲したスラブによって誘発される行為に着目している』(2作品)。A07『光が上から下まで届くように吹き抜けや縦の筒を通し、特定の場所を明るく照らす』(4作品)。A10『風が空間全体に通るように抜けをつくっている』(2作品)。A12『下の階は開放的で、上の階に行くほど閉鎖的になる』(3作品)。A13『一定の方向性を持って空間を連続的に構成している』(2作品)。

A01『スラブのズレや壁の高さの構成を椅子やテーブルなどの家具のように使用する』は、「400mmのずれは腰掛ける場を創る」などの設計者の意図や「870mmの高さをテーブルとして利用している」などの設計者以外による空間の解釈から、構造スケールと身体スケールを融合させようとしていることがわかる。A02『湾曲したスラブによって誘発される行為に着目している』は、「曲線の形状は身体スケールを考慮しながら生み出した」などの設計者の意図や「曲面を読み取ることで行為が生まれる」などの設計者以外による空間の解釈から、曲面に身体性の可能性があることがわかる。A03『しゃがんだり寝たりしなければいくことのできない空間をつくる』は、1000mmや1400mmの高さしかない空間が断面図に表記されているなどの設計者による表現や「しゃがまないと入れない高さの場がある」などの設計者以外による空間の解釈から、ある一定の行為をしなければ入れない天井の低い空間をつくっていることがわかる。A04『スラブの大きさや高さによって空間を規定している』は、「スラブの大きさや配置する高さから成る」などの設計者の意図や「内壁がなくスラブのズレによって空間を規定している」などの設計者以外による空間の解釈から、スラブの配置や構成によって空間をつくっていることがわかる。A05『設計者が意図的に内部空間と外部空間をつくっている』は、「室内でありながら屋外でもある空間」などの設計者の意図や「外部を介した空間の連続」などの設計者以外による空間の解釈から、空間の構成の一部を外部空間としていることがわかる。A06『内部と外部はガラス等で仕切らずグラデーションするように連続している』は、自然を感じる中で心地よい空間になるよう」などの設計者の意図や「完全に閉ざされない内がある」などの設計者以外による空間の解釈か

Table.1 294 作品の延床面積と偏差値

作品番号	年代	床面積(㎡)	標準偏差	偏差値	作品番号	年代	床面積(㎡)	標準偏差	偏差値
20 15	2020	61.98	(2.43)	25.73	17 10	2017	135.44	0.01	50.09
20 20	2020	73.21	(2.05)	29.45	21 28	2021	135.44	0.01	50.09
21 14	2021	73.93	(2.03)	29.59	13 28	2013	135.44	0.01	50.09
19 09	2019	74.38	(2.02)	29.84	15 29	2015	136.27	0.04	50.36
20 06	2020	74.57	(2.01)	29.90	22 02	2022	136.67	0.05	50.50
20 28	2020	77.53	(1.91)	30.88	22 23	2022	137.20	0.07	50.67
22 30	2022	77.93	(1.90)	31.02	15 01	2015	137.25	0.07	50.69
19 16	2019	79.46	(1.85)	31.52	16 03	2016	137.37	0.07	50.71
18 05	2018	82.38	(1.75)	32.49	15 15	2015	137.33	0.07	50.71
19 18	2019	82.99	(1.73)	32.60	21 19	2021	137.38	0.07	50.73
18 10	2018	83.05	(1.73)	32.71	17 08	2017	137.67	0.08	50.83
18 15	2018	83.23	(1.72)	32.77	20 21	2020	137.70	0.08	50.84
18 11	2018	83.87	(1.68)	33.65	16 29	2016	137.74	0.09	50.85
18 06	2018	86.22	(1.62)	33.76	22 17	2022	137.96	0.09	50.92
19 06	2019	88.71	(1.54)	34.59	17 03	2017	138.00	0.09	50.94
20 29	2020	90.21	(1.49)	35.09	15 12	2015	138.09	0.10	50.97
22 05	2022	91.55	(1.45)	35.52	16 03	2016	138.42	0.11	51.08
17 15	2017	91.55	(1.45)	35.53	18 04	2018	138.42	0.11	51.08
13 09	2013	93.13	(1.39)	36.06	18 01	2018	138.68	0.12	51.23
20 02	2020	93.47	(1.38)	36.17	14 21	2014	138.89	0.12	51.23
20 16	2020	93.95	(1.37)	36.33	15 25	2015	139.03	0.13	51.28
19 25	2019	92.65	(1.39)	36.23	19 23	2019	139.71	0.15	51.32
16 19	2016	96.97	(1.27)	37.33	16 20	2016	139.62	0.15	51.47
17 23	2017	97.05	(1.26)	37.36	21 18	2021	139.63	0.15	51.48
18 07	2018	97.12	(1.26)	37.38	22 15	2022	139.67	0.15	51.49
20 14	2020	97.01	(1.26)	37.31	22 08	2022	139.73	0.15	51.51
21 01	2021	97.64	(1.24)	37.55	19 29	2019	139.79	0.15	51.53
16 05	2016	98.38	(1.22)	37.80	21 01	2021	139.79	0.15	51.53
14 05	2014	99.63	(1.18)	38.21	19 27	2019	139.94	0.16	51.58
15 21	2015	100.47	(1.15)	38.49	21 30	2021	140.13	0.16	51.64
19 01	2019	100.46	(1.14)	38.44	13 22	2013	141.31	0.20	51.82
19 17	2019	101.41	(1.12)	38.80	21 25	2021	141.16	0.20	51.98
16 21	2016	101.66	(1.11)	38.89	12 21	2012	141.25	0.20	52.01
17 19	2017	101.75	(1.11)	38.91	15 11	2015	141.71	0.22	52.17
16 16	2016	102.76	(1.08)	39.25	12 02	2012	141.80	0.22	52.20
18 20	2018	102.76	(1.08)	39.25	15 16	2015	143.71	0.28	52.83
13 20	2013	105.59	(0.98)	40.19	22 11	2022	142.25	0.23	52.35
12 13	2012	105.73	(0.98)	40.23	13 03	2013	142.36	0.24	52.38
22 07	2022	105.92	(0.97)	40.30	14 09	2014	142.59	0.25	52.46
17 17	2017	106.35	(0.96)	40.44	15 04	2015	142.69	0.25	52.49
17 05	2017	106.95	(0.94)	40.64	16 24	2016	143.04	0.26	52.61
18 18	2018	106.99	(0.93)	40.65	22 20	2022	143.14	0.26	52.64
16 08	2016	107.00	(0.93)	40.66	16 09	2016	143.46	0.27	52.75
20 30	2020	107.11	(0.93)	40.69	14 07	2014	143.67	0.28	52.82
15 28	2015	107.18	(0.93)	40.72	15 16	2015	143.71	0.28	52.83
14 20	2014	107.58	(0.92)	40.85	18 30	2018	143.94	0.29	52.91
15 05	2015	107.72	(0.91)	40.89	14 18	2014	144.72	0.32	53.17
14 19	2014	108.20	(0.89)	41.05	17 20	2017	144.81	0.32	53.20
17 18	2017	108.46	(0.89)	41.14	14 24	2014	144.94	0.32	53.24
21 13	2021	108.98	(0.87)	41.31	16 20	2016	145.14	0.33	53.30
12 27	2012	108.99	(0.87)	41.32	21 20	2021	145.33	0.34	53.37
15 10	2015	109.13	(0.86)	41.36	14 04	2014	145.75	0.35	53.51
17 11	2017	109.17	(0.86)	41.38	19 01	2019	146.16	0.36	53.64
13 15	2013	109.55	(0.85)	41.50	20 10	2020	146.38	0.37	53.72
17 29	2017	109.56	(0.85)	41.50	17 30	2017	146.47	0.37	53.75
17 22	2017	110.00	(0.83)	41.65	12 20	2012	146.64	0.38	53.80
19 29	2019	110.34	(0.82)	41.76	12 09	2012	147.29	0.40	54.02
16 07	2016	110.42	(0.82)	41.79	17 16	2017	147.54	0.40	54.03
20 13	2020	110.78	(0.81)	41.90	15 06	2015	147.76	0.41	54.07
15 23	2015	110.78	(0.81)	41.91	20 03	2020	147.78	0.42	54.18
19 30	2019	111.03	(0.80)	41.99	13 27	2013	148.30	0.44	54.35
21 17	2021	111.19	(0.80)	42.05	22 19	2022	148.73	0.45	54.50
18 17	2018	111.48	(0.79)	42.13	13 16	2013	149.03	0.45	54.61
19 13	2019	112.19	(0.76)	42.38	12 24	2012	149.80	0.48	54.85
18 12	2018	112.64	(0.75)	42.53	15 07	2015	149.92	0.49	54.89
20 09	2020	113.24	(0.73)	42.73	19 21	2019	149.99	0.49	54.91
18 29	2018	113.50	(0.72)	42.81	15 09	2015	150.12	0.50	54.96
17 02	2017	114.42	(0.69)	43.12	15 30	2015	150.12	0.50	54.96
15 02	2015	114.53	(0.68)	43.15	15 18	2015	151.00	0.52	55.25
13 02	2013	115.23	(0.66)	43.39	13 10	2013	151.29	0.53	55.34
17 09	2017	115.72	(0.65)	43.55	16 02	2016	151.40	0.54	55.38
15 06	2015	116.03	(0.65)	43.66	15 20	2015	151.60	0.54	55.42
12 04	2012	116.43	(0.62)	43.78	17 04	2017	151.64	0.55	55.46
14 13	2014	116.65	(0.61)	43.86	21 10	2021	151.76	0.55	55.50
14 15	2014	116.65	(0.61)	43.86	22 29	2022	152.49	0.57	55.74
14 12	2014	116.76	(0.61)	43.89	21 09	2021	152.75	0.58	55.83
11 26	2011	117.19	(0.60)	44.04	13 06	2013	152.61	0.57	55.79
15 19	2015	117.19	(0.60)	44.04	22 04	2022	152.89	0.59	55.87
18 26	2018	117.92	(0.57)	44.28	17 28	2017	152.91	0.59	55.88
20 23	2020	117.94	(0.57)	44.28	13 08	2013	154.02	0.62	56.25
14 28	2014	118.11	(0.56)	44.37	22 28	2022	154.15	0.63	56.29
18 03	2018	118.21	(0.56)	44.39	19 14	2019	154.37	0.64	56.37
18 19	2018	118.50	(0.55)	44.47	21 22	2021	155.07	0.66	56.60
17 01	2017	118.60	(0.55)	44.50	18 21	2018	155.50	0.67	56.74
14 10	2014	119.07	(0.53)	44.66	14 11	2014	155.52	0.67	56.75
20 08	2020	119.11	(0.53)	44.67	11 22	2011	156.31	0.72	57.01
12 14	2012	119.26	(0.53)	44.72	14 03	2014	156.45	0.71	57.06
15 27	2015	119.82	(0.51)	44.91	17 24	2017	156.79	0.72	57.17
13 17	2013	119.83	(0.51)	44.91	16 11	2016	156.90	0.72	57.20
18 02	2018	120.02	(0.50)	44.97	13 18	2013	157.12	0.73	57.28
14 30	2014	120.02	(0.50)	44.97	19 05	2019	157.67	0.74	57.46
20 17	2020	120.44	(0.49)	45.11	16 10	2016	157.88	0.75	57.53
19 26	2019	120.54	(0.49)	45.15	17 26	2017	159.56	0.81	58.09
22 06	2022	120.54	(0.49)	45.15	22 21	2022	161.97	0.89	58.89
21 05	2021	121.96	(0.44)	45.62	13 26	2013	162.61	0.91	59.10
22 09	2022	121.99	(0.44)	45.63	15 24	2015	164.88	0.99	59.85
17 27	2017	122.07	(0.43)	45.65	21 07	2021	165.12	0.99	59.93
16 17	2016	122.09	(0.43)	45.66	19 12	2019	165.36	1.00	60.01
22 13	2022	122.20	(0.43)	45.70	18 14	2018	165.46	1.00	60.04
11 11	2011	122.56	(0.42)	45.81	12 05	2012	165.29	0.98	59.82
13 14	2013	122.56	(0.42)	45.82	16 06	2016	165.56	1.01	60.08
16 22	2016	122.77	(0.41)	45.89	19 20	2019	166.03	1.02	60.23
20 25	2020	123.01	(0.40)	45.97	18 16	2018	166.11	1.03	60.26
16 04	2016	123.43	(0.39)	46.10	13 12	2013	166.62	1.04	60.33
17 06	2017	123.65	(0.38)	46.18	14 16	2014	168.18	1.09	60.57
17 13	2017	123.81	(0.38)	46.23	13 19	2013	168.23	1.10	60.56
13 29	2013	124.08	(0.37)	46.32	14 17	2014	170.32	1.17	61.65
14 08	2014	124.16	(0.37)	46.35	15 03	2015	170.49	1.17	61.71
22 03	2022	124.35	(0.36)	46.41	22 10	2022	172.3		

[C01] 空間の強弱といったことを体験的に創造することで輪郭のはっきりとしない空間を連続的につくっている

[B07] A06 を格上げ

[A06] 内部と外部はガラス等で仕切らず
クラクションするように連続している

19_22 21_15 21_24
22_10 22_27

[B06] 壁や開口部の形や配置の仕方によって、空間の強弱をつけようとしている

[A12] 下の階は開放的で、上の階に行くほど閉鎖的になる

13_19 13_25 14_06
16_14 21_27

[A08] 光を外壁の開口部によって
意図的に制御している

13_24 15_03
16_23

[C02] 空間は視覚だけで捉えられるものではなく、身体を経験として空間を捉え、体験や行為に基づいて空間をつくっている

[B01] 人の日常的な行為に着目し、身体スケールに基づいて空間をつくっている

[A03] シャがんだり寝たりしなければいけないことのできない空間をつくる

13_21 19_04 22_12
22_26 22_27

[A01] スラブのズレや壁の高さの構成を
椅子やテーブルなどの家具のように使用する

18_08 18_09
21_15 22_27

[B04] 曲面のスラブや壁、壁の配置や開口を工夫することで、視線や動線を制御しつつ、それによって誘発される行為に着目している

[A11] 壁の配置や曲面、開口によって視線や動線を制御している

13_26 17_25 19_11 19_20
20_22 21_02 22_10

[A02] 湾曲したスラブによって
誘発される行為に着目している

19_22 20_07

[B02] 床のつくり方や壁や階段の配置を工夫して、光や空気、視線が通るようにしている

[A07] 光が上から下まで届くように
吹き抜けや線の筒を通して、
特定の場所を明るく照らす

14_17 16_23
19_04 20_22 22_25

[A10] 風が空間全体に
通るように
抜けをつくらせている

19_03

[C03] 対比される空間の連続が次なる空間の期待を持たせることで、そのシーケンスを楽しむ空間をつくっている

[B03] 狭い、広い、高い、低い、閉じる、開けるといった空間の大きさの対比により空間を特徴づけている

[A04] スラブの大きさや高さによって
空間を規定している

14_17 16_30
21_15 22_18
21_06

[A09] 壁と天井で覆われた閉じた空間をつくり、
それ以外の空間との対比をつくる

14_16 18_14
19_04 19_12
20_04 20_22

[B05] 方向性や内外の連続する空間体験によって 8m 立方の外へと意識が向けられている

[A05] 設計者が意図的に内部空間と外部空間をつくらせている

12_05 13_12 16_06
18_08 18_09 19_12
19_20 20_07 20_24
21_08 22_12 22_24

[A13] 一定の方向性を持って
空間を連続的に
構成している

19_03 22_12

Fig.2 グループの包含関係とそれに基づく結果

ら、A05のガラスなどの仕切りによって内部と外部をつくっているのに対して、緩やかに空間が連続していることがわかる。A07『光が上から下まで届くように吹き抜けや縦の筒を通し、特定の場所を明るく照らす』は、「中央に空いた大きな吹き抜けに射す光が各フロアに広がり、一階へと落ちていく」などの設計者の意図や「円の筒が光を落としている」などの設計者以外による空間の解釈から、特定の空間に階層を縦断するように光を導いているということがわかる。A08『光を外壁の開口部によって意図的に制御している』は、「室により違った光の影を楽しむ」などの設計者の意図や「スリットのみの開口で光を強調している」などという設計者以外による空間の解釈から、明るさの対比によってそれぞれの空間を引き立たせている。A09『壁と天井で覆われた閉じた空間をつくり、それ以外の空間との対比をつくる』は、閉じた空間と開けた空間の対比によって、それぞれの空間を引き立たせていることがわかる。A10『風が空間全体に通るように抜けをつくっている』は、「隙間を設けることで風を全ての空間と共有」などの設計者の意図や「全体がつながるように抜けをつくっている」などの設計者以外による空間の解釈から、8m立方全体に風が回るように計画していることがわかる。A11『壁の配置や曲面、開口によって視線や動線を制御している』は、「完全に外が見える窓よりも外を見てみたいと思う気持ちを持ち立てる」などの設計者の意図や「腰壁や垂れ壁が視線を制御している」などの設計者以外による空間の解釈から、空間のその次への期待を掻き立てている。A12『下の階は開放的で、上の階に行くほど閉鎖的になる』は、「逆三角形の壁を用いることで上の階に行くほどプライバシーの高い空間を作り出す」などの設計者の意図や「上の階に行くほど壁が多く、空間が分節される」などの設計者以外による空間の解釈から、空間の分け方によって、それぞれの空間を引き立たせている。A13『一定の方向性を持って空間を連続的に構成している』は、空間構成の要素を一定の方向性を持って構成することで、8m立方の外まで連続する軸を作り出している。

A01～A13グループを高次のグループにグルーピングして次の6つの特徴を抽出する。B01『人の日常的な行為に着目し、身体スケールに基づいて空間をつくっている』(A01, A03)。B02『床のつくり方や壁や階段の配置を工夫して、光や空気、視線が通るようにしている』(A07, A10)。B03『狭い、広い、高い、低い、閉じる、開けるといった空間の大きさの対比により空間を特徴づけている』(A04, A09)。B04『曲面のスラブや壁、壁の配置や開口を工夫することで、視線や動線を制御しつつ、それによって誘発される行為に着目している』(A02, A11)。B05『方向性や内外の連続する空間体験によって8m立方の外へと意識が向け

られている』(A05, A13)。B06『壁や開口部の形や配置の仕方によって、空間の強弱をつけようとしている』(D08, D12)。B07『内部と外部の境界は明確ではなく、グラデーションするように連続している』(A06を格上げ)。

さらにB01～B07グループを高次のグループにグルーピングして次の3つの特徴を抽出する。C01『空間の強弱といったことを体験的に創造することで、輪郭のはっきりとしない空間を連続的につくっている』(B06, B07)。C02『空間は視覚だけで捉えられるものではなく、身体の経験として空間を捉え、体験や行為に基づいて空間をつくっている』(B01, B02, B04)。C03『対比される空間の連続が次なる空間への期待を持たせることで、そのシーケンスを楽しむ空間をつくっている』(B03, B05)。

5. 考察とまとめ

本研究では、延べ床面積、空間構成に着目して分析を行い、その空間に内在する秩序を明らかにした。

本課題の魅力は建築の初学者である2年次生が、秩序を持った空間に向き合うことで、建築とは何かという問いを繰り返すことであると考える。体験や経験といったパースペクティブなイメージ^{注1)}と縮尺を持った模型を行き来することで、機能や造形だけでは生まれない魅力的な空間が生まれていると考える。

【注釈】

- 注1) Alejandro Gaston Aravena Moriはチリの建築家で、Quinta-Monroyは基礎的な構造とインフラを提供し、住民自ら追加部分を建築できる柔軟性を持たせた集合住宅であり、2016年にプリツカー賞を受賞している。
- 注2) 山本理顕は日本の建築家で、彼の掲げる「地域社会圏」とは公共空間やインフラ、住環境が結びつくことで、ここの暮らしやコミュニティが支え合う社会の提案であり、2024年にプリツカー賞を受賞し、この時の審査委員長はAlejandro Aravenaである。
- 注3) プリツカー賞は、建築の分野で優れた業績を上げた建築家に贈られる賞で、その評価基準は人類の生活に対して継続的に重要な貢献を果たしていることである。
- 注4) 『広辞苑第六版』⁴⁾では「秩序」の定義として、1) 物事の条理。物事の正しい順序・筋道。次第。2) 特に、社会などの規則立った関係。と記載されている。
- 注5) 森田慶一は、古典建築の研究を通して建築の本源を思索し、青年期にはフランスとギリシア、終生にはロマンの古典性を深く研究している。
- 注6) 2023年より本学科におけるカリキュラムが変更され、コース制が廃止され、スタジオ制に変更された際に、2年次に学科全員が取り組む課題となった。したがって、指導方法が異なるため、研究対象からは外している。
- 注7) Rhinocerosと呼ばれる3次元モデリングツールを本研究では使用している。
- 注8) 各数値の結果が全体の平均と比べてどの程度の位置にあるかを示す指標である。
- 注9) データの散らばり具合を示す統計的な指標である。
- 注10) 文化人類学者の川喜田二郎がデータをまとめるために考案した手法。
- 注11) ここでは設計者が縮尺を持った模型や図面に対して、現実のスケールでイメージされる描写を指す。

【参考文献】

- 1) 森田慶一：建築論、東海大学出版会、p. 124, 1992.
- 2) 山本理顕、上野千鶴子、金子勝、平山洋介、仲俊治+末光弘和+Y-GSA、松行輝昌：地域社会権主義 増補改訂版、株式会社トゥーヴァージンズ、2023.
- 3) 総合資格学院：JUTAKUKADAI08 住宅課題賞2019、課題出題教員インタビュー、p274-275、一般社団法人 東京建築士会 事業委員会、2020.
- 4) 新村出：広辞苑第六版、株式会社岩波書店、2016.